

第3期岡谷市教育大綱（案） （2024-2028）



武井武雄「2年」1958年 ©岡谷市/イルフ童画館

令和6年2月

長野県岡谷市
岡谷市教育委員会

1 はじめに

本市では、まちづくりの基本的な指針を示す第5次岡谷市総合計画の将来都市像を「人結び 夢と希望を紡ぐ たくましいまち岡谷」とし、その実現をめざしてまちづくりを進めております。

まちづくりの中心は「人」であり、いつの時代も、また、どのような状況下にあっても変わることのない普遍的なものと捉えていることから、未来の担い手である子どもたちをはじめ「ひとづくり」への想いを込めて、教育に係わる基本目標に「未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち」を掲げるとともに、まちの宝であり希望である子どもたちを地域ぐるみで育て、市民がともに育つ「とも育ち」を推進するため、後期基本計画の5年間に特に重点的に取り組んでいく重点プロジェクトのひとつとして「子育てしやすい環境の実現」を掲げております。

本市の教育行政の推進にあたっては、学校教育に関しては「岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン」、生涯学習に関しては「第6次岡谷市生涯学習推進計画（学びの紡ぎ応援プラン）」、スポーツに関しては「第2次岡谷市スポーツ推進計画（はつらつ岡谷スポーツプラン）」を策定しており、この3計画をもって本市の教育振興基本計画と位置付け、各種施策を推進しております。

本市における教育の根幹となる「第2期岡谷市教育大綱」が令和5年度をもって最終年度となることから、市政運営の最上位計画となる「第5次岡谷市総合計画後期基本計画」との調和を図りながら、本市のめざす教育、学術及び文化に関する施策の大綱として「第3期岡谷市教育大綱」を定めます。

昨今の予測困難な社会環境の中で、教育、文化、スポーツの振興・推進により有用感に満たされた人々の幸せを創造するとともに、未来を担う子どもたちがたくましく生き抜くことのできる資質、能力を育成するほか、市民一人ひとりが生涯にわたり心豊かな暮らしを実現できるよう、家庭・学校・地域・行政がともに連携しながら、協働による教育の充実を図ってまいります。

令和6年2月 岡谷市長 早出 一真

2 教育大綱の法的根拠

教育大綱は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3の規定に基づき、市長が定める教育、学術及び文化に関する施策の大綱として策定するものです。

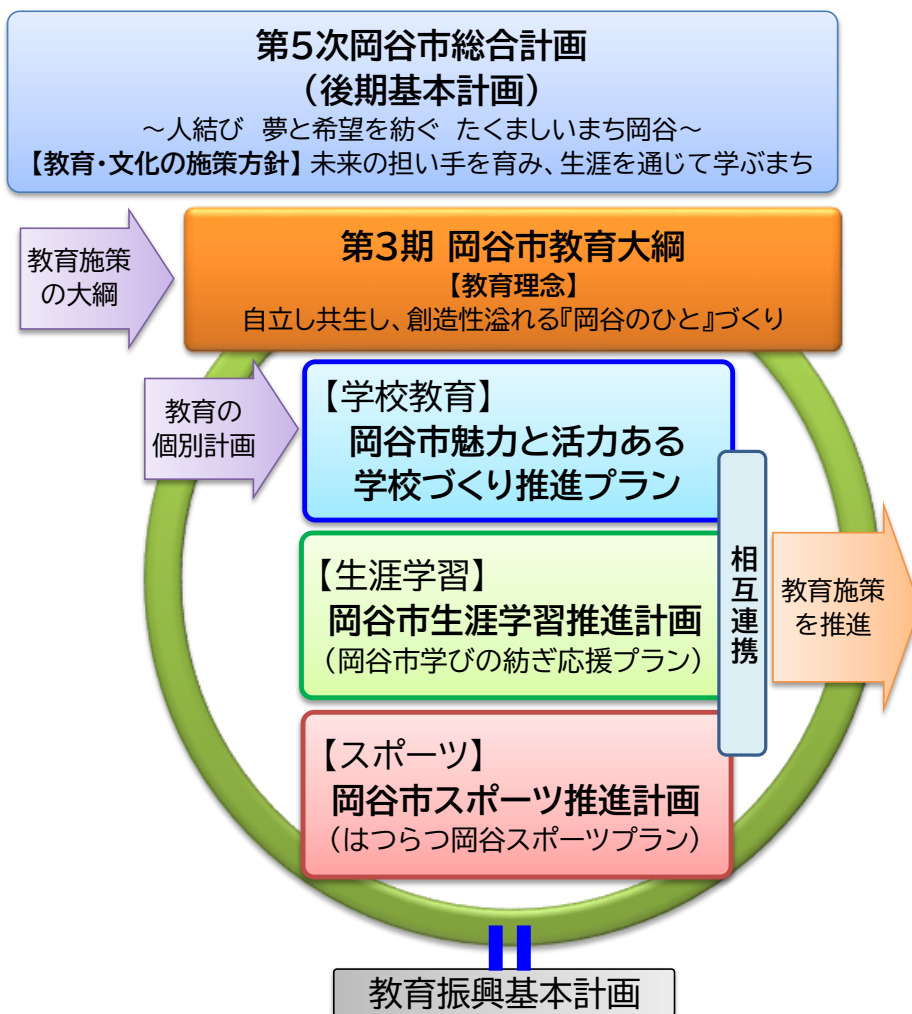
-地方教育行政の組織及び運営に関する法律-
(大綱の策定等)

第1条の3 地方公共団体の長は、教育基本法第17条第1項に規定する基本的な方針を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものとする。

3 教育大綱の位置づけ

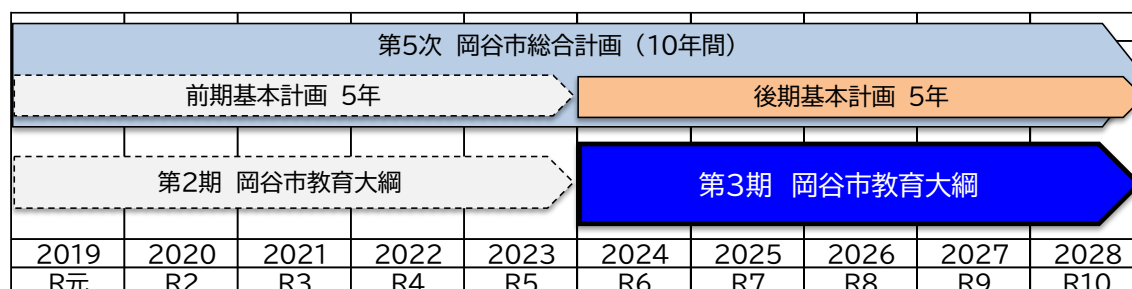
教育大綱は、市政の最上位計画である「第5次岡谷市総合計画後期基本計画」と調和を図り、岡谷市総合教育会議における協議、調整を踏まえ、本市がめざす教育の姿を大綱として明らかにするものです。

また、学校教育、生涯学習、スポーツの個別計画が相互連携しながら施策を推進し、これらを包括して本市の「教育振興基本計画」とみなします。



4 教育大綱の期間

第3期岡谷市教育大綱の期間は、第5次岡谷市総合計画後期基本計画との整合を図るため、令和6年度から令和10年度までの5年間とします。



5 まちづくり、子育ての普遍の理念

岡谷市は、「まちづくり」や「子育て」に関する市民共通の普遍的な憲章を定めています。この2つの憲章は、時代を超えて受け継がれる大切な理念であり、「岡谷市教育大綱」においても基本とする考え方となります。

岡谷市民憲章（昭和46年7月1日制定）

緑と湖につつまれた美しい郷土、ここに生きるわたくしたち岡谷市民は、先人の努力をうけつぎ、明るく豊かな近代都市をめざして、この憲章をかかげ力強く前進します。

わたくしたちは、

あたたかい心でまじわり、住みよい人間尊重のまちをつくります。

自然を保護し、公害のない美しい環境のまちをつくります。

心身をきたえ、明るい健康のまちをつくります。

教養を深め、かおり高い文化のまちをつくります。

仕事に誇りをもち、豊かな産業のまちをつくります。

おかや子育て憲章（平成14年4月1日制定）

わたくしたち岡谷市民は、未来を担う子どもたちの健全な成長を願い、子どもの心の自立を支えるため、市民総参加による子育てのまちづくりを進めます。

わたくしたちは、

○明るく元気で健やかな子どもに育てます。

○命を大切にし、感謝の心と思いやりのある子どもに育てます。

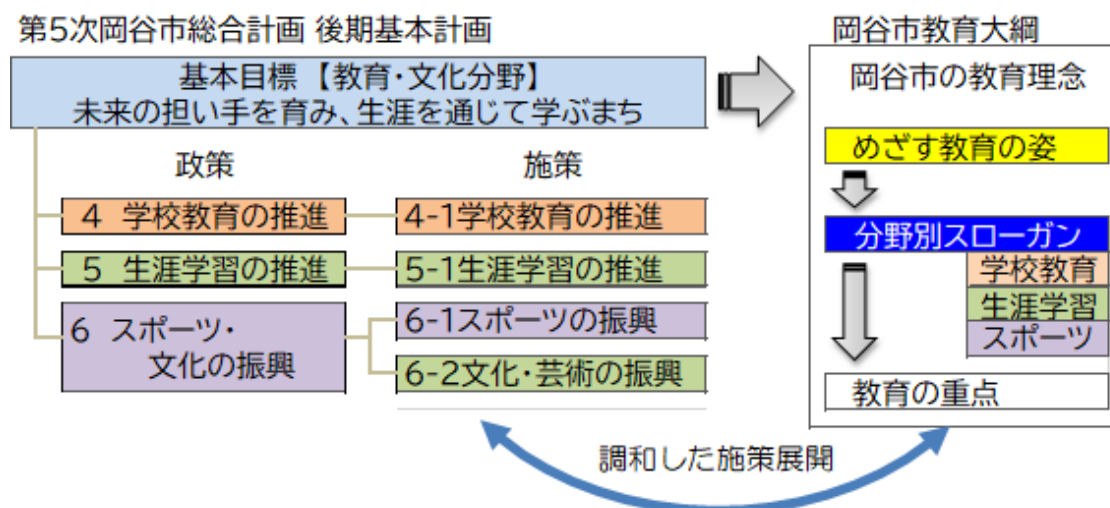
○自ら求め、粘り強くやり抜く子どもに育てます。

○行動に責任を持ち、ひとり立ちのできる子どもに育てます。

○力を合わせて人のために尽くし、郷土を愛する子どもに育てます。

6 まちづくりの総合計画と教育大綱の関係

第5次岡谷市総合計画では、まちづくりの分野別に基本目標を設定しており、教育・文化に関しては、「未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち」としています。岡谷市教育大綱では、市の総合計画に掲げる基本目標と調和を図りながら、「めざす教育の姿」を「教育の理念」として掲げ、各教育施策を推進していくための基本となる方向性を示すものとなります。



7 教育的課題の整理

(1) 学校教育の現況と課題

① 新型コロナウイルス感染症の流行や激動する国際情勢などの影響により、社会が急激に変化し、予測困難な時代を迎えています。情報化が進展した現代を生きる子どもたちに、確かな学力と健やかな成長を保障し、持続可能な社会の創り手となる資質と能力を育む必要があります。

② インターネットを介した学習や交流、ゲームなど、子どもたちの生活スタイルが変化し、新たな教育課題が増えています。社会や環境の変化を把握しながら、いじめや不登校などの問題に適切に対応するほか、複雑な問題を抱える家庭に対しては、学校、家庭、地域が連携して、チームで支える支援体制の充実が求められています。

③ 少子化や人口減少が進展する社会の中で、岡谷に生まれ育つ子どもたちが郷土に誇りと愛着を持ち、ふるさと回帰の心を育む必要があります。未来の担い手となる子どもたちが自ら主体的に考え、有用感に満たされた幸せを実現でき、将来に夢と希望を持てる教育を推進する必要があります。

④ 建設から半世紀近くが経過する学校施設が多く、老朽化が課題となっているため、安全で安心して学べる校舎の整備を計画的に進める必要があります。また、少子化にあっても、豊かな人間関係を育むことができるよう、異年齢の子どもたちの交流や幼保小中の切れ目のない連携など、学びをつなぐ新たな環境づくりを進める必要があります。

(2) 生涯学習の現況と課題

① 人生100年時代と言われる中で、子どもから高齢者までが生涯にわたって学び続けることのできる環境づくりが求められています。人口減少や価値観の多様化に加え、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、カルチャーセンター、公民館の講座などへの参加者や学習グループの減少、指導者の不足などが課題になっています。ICTの活用などニーズに応じた講座の企画やSNSを活用した情報発信を通じて、学習活動の活性化を図るとともに、新たな人材の発掘・育成を進める必要があります。

② 少子化、核家族化の進展や地域とのつながりの希薄化など、社会環境が変化する中で、子育ての悩みや不安を抱え、孤立を感じる家庭が増えていることから、家庭と地域の教育力の向上に取り組む必要があります。

③ ライフスタイルの変化や情報化社会の進展により、青少年を取り巻く環境が刻々と変化しています。家庭、学校、地域が一体となって連携し、青少年の健全な成長を支える環境づくりを進める必要があります。

④ 子どもたちに豊かな想像力や表現力を育む上で、読解力や思考力を養う読書は大切であり、また、あらゆる世代の市民の「知りたい」「学びたい」の思いにこたえ、生涯を通じて読書を楽しむことができるよう、読書活動のさらなる推進に努め、図書館サービスを充実する必要があります。

⑤ 絵画などの芸術作品や考古などの歴史に触れることのできる美術考古館に幅広い年齢層の来館者が訪れるよう、多様で魅力的な企画展示やイベントなどを企画するほか、SNSなどを活用して積極的な情報発信を行う必要があります。

⑥ 市民の大切な財産である文化財を後世に継承できるよう、文化財の保護・活用に努める必要があります。

⑦ 岡谷市史発刊から40年余が経過し、市民生活や環境などが大きく変化していることから、市の歴史や文化を後世に伝えるため、市史編さん事業を進める必要があります。

(3) スポーツの現況と課題

- ① コロナ禍の影響によって、スポーツに親しむ機会の減少が懸念されています。スポーツ施設の利用者数やスポーツ教室の参加者数が回復しない現状を踏まえ、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」といったさまざまなかたちで、誰もが気軽にスポーツに参加できる環境づくりを進める必要があります。
- ② スポーツ選手の競技水準の向上や育成強化、スポーツ指導者の養成が求められており、スポーツ選手の競技力向上に向けた取組とともに、スポーツ選手を支える指導者の人材育成が必要です。
- ③ 小中学生の体力低下が全国的な課題となっている中、子どもの体力向上に向け、年齢や体力に応じて元気に楽しく運動やスポーツに取り組める環境整備を進める必要があります。
- ④ スポーツ施設の老朽化が進行していることから、利用者の安全と安心の確保に向け、計画的に長寿命化を図るとともに、施設の一層の有効活用を推進する必要があります。
- ⑤ 長野県において令和10（2028）年第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会（信州やまなみ国スポ・全障スポ）が開催されるため、本市における開催競技の成功に向け、県や競技団体などと連携して取り組む必要があります。

8 教育の理念

まちづくりの主役は「まちの人々」です。世代を超えた岡谷の「ひとづくり」に教育は大きな役割を果たします。

第5次岡谷市総合計画における教育の基本目標「未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち」の実現に向け、めざす人間像を本市の「教育の理念」とします。

自立し、共生し、創造性溢れる『岡谷のひと』づくり

（岡谷市がめざす教育の姿）

子どもたちの有用感に満たされた幸せの実現に向け、一人ひとりの人生の礎となる、確かな学びと成長の支えにより、自己肯定感と自己有用感を醸成するとともに、共生社会を生き抜き、創造性溢れる、豊かな感性と人間性を育みます。

また、生涯を通じて学び続け、スポーツに触れ、親しむ環境づくりを推進するとともに、地域に根ざす『ひと、もの、こと、こころ』の資源を活用しながら、郷土を愛する心を醸成し、未来を切り拓く力を養います。

更に、主体的に取り組み、分かり合えるひと（自己）の力を育み、多様性に富み、魅力と活力ある学校の力、共生社会を支える地域の力、ひとづくりの根幹を担う家庭の力の充実を図り、互いに連携しながら、行政との協働により、『岡谷のひとづくり』を推進します。

9 分野別スローガン

教育の理念に掲げた「岡谷のひとづくり」を推進するため、教育行政における「学校教育」、「生涯学習」、「スポーツ」を3つの柱と位置づけ、各分野において、めざす「ひとづくり」の姿をスローガンとして掲げ、第3期岡谷市教育大綱の期間に重点的に取り組む項目などを整理します。



学校教育 生き抜く力と創造力、知的好奇心溢れる心豊かなひとづくり

生涯学習 歴史と文化を礎に、自ら学び続け、地域で輝くひとづくり

スポーツ 親しみ、挑戦し続ける、たくましい心と体のひとづくり

10 スローガン別、主な教育施策と重点項目

学校教育

生き抜く力と創造力、 知的好奇心溢れる心豊かなひとづくり

●未来を切り拓く確かな学力と成長の保障



子どもたちが幸福で充実した人生を送ることができるよう、基礎的・基本的な「知識・技能」の習得を図るほか、「思考力・判断力・表現力等」および「学びに向かう力、人間性等」の知・徳・体にわたる3つの柱により、子どもたちの「生き抜く力」を育み、授業改善と学力向上を推進します。

教育DXへの取組を通じて情報活用能力を高めるほか、一人ひとりに合わせた個別最適な学びと協働的な学びを提供します。

●「ふるさと学習」の推進と地域に開かれた学校づくり

生まれ育ったまちの自然や歴史、文化や産業など、ふるさと岡谷の特徴を活かした独自の学習スタイル「岡谷スタンダードカリキュラム」の実践を通じて、子どもたちに郷土の誇りと愛着、ふるさと回帰の心を醸成する「ふるさと学習」を推進します。また、地域に開かれた学校づくりを進める「岡谷版コミュニティスクール」の充実を図るほか、学社連携により、将来に夢と希望を持ち、未来を切り拓くキャリア教育を充実します。



●自立と共生のインクルーシブ教育の充実



障がいのあるなしにかかわらずともに学ぶインクルーシブ教育を基盤とし、一人ひとりに寄り添った特別支援教育を推進するほか、他者を理解し、思いやる力を育む人権教育、道徳教育などの充実を図ります。また、命の大切さを学ぶ「いのちの安全教育」などの取組を通じて、子どもたち自身が困難を乗り越えることのできる、しなやかで強い心を育みます。

●多様性を包み込む魅力と活力ある学校づくり

子どもたちの個性を尊重し、多様性を包み込むあたたかな学校づくりを進めます。いじめや不登校、子どもの障がいや特性など、さまざまな支援が必要な児童生徒、家庭に対して、子ども総合相談センターおよび学びの創生・連携支援室が中心となり、チームによる支援を行います。また、学校部活動の円滑な地域移行に取り組むほか、児童生徒の体力向上と健康の保持増進などを図り、魅力と活力ある学校づくりを推進します。

●笑顔で安心して学べる教育環境の整備

安全で安心して学べる魅力的な教育環境の充実を図るため、学校施設の老朽化に対応する長寿命化大規模改修などを計画的に実施するほか、将来を見据えた学校施設の適正規模・適正配置を検討します。また、幼児期から学齢期までの異年齢が交流でき、小中学校9年間の一貫した教育を実践する義務教育学校の設立をめざします。

歴史と文化を礎に、 自ら学び続け、地域で輝くひとづくり

●生涯を通じた学びの推進

生涯学習に関する情報の発信により、市民の学習意欲の促進と市民ニーズや時代の変化に応じた講座など、知識、技能を獲得する機会の充実に努めます。また、生涯学習の指導者の発掘、確保に努めるとともに、学習グループや各種団体の活動を支援します。年齢・地域などを理由に誰一人取り残されないよう、デジタルリテラシー向上をめざした講座を開催するとともに、講座の動画配信などにより、いつでもどこでも学ぶことができるように努めます。



●家庭・地域の教育力向上

子どもたちが人間性豊かに育つことができるよう、家庭、学校、地域と連携して、保護者を応援するための学習講座の開催や親同士が交流できる機会を提供し、家庭と地域の教育力向上の支援に努めます。

●青少年の健全育成



家庭、学校、地域と連携・協力し、ふるさとに愛着や誇りを持ち、心豊かに成長できる環境づくりや積極的に社会に参画する子どもたちを育成するため、多様な体験活動や団体活動の機会を提供します。

●読書の推進

子どもから大人まで広く市民が読書に親しみの持てる環境を整えます。特に、子どもたちの読書習慣の定着を図るため、市立岡谷図書館と学校等施設との連携やボランティア団体などとの協働により、子どもの発達段階に応じた読書の機会提供と普及・啓発に取り組みます。



●美術考古館の活用



地元出身作家による芸術作品や市内遺跡から出土した土器、土偶などを中心とする考古資料の美術考古館での展示を通じて、美術と考古双方の魅力をSNSなども活用し、広く市民に発信します。また、学校教育での活用や商店街との連携による賑わいの創出、市民の作品展示や幅広い年齢層が対象のイベント開催など、市民が気軽に立ち寄り、交流ができる学びの場を提供します。

●文化財の保護・活用

文化財の調査・収集および保存・保護に努めるとともに、市内に残る近代化産業遺産群や日本遺産を活用し、地域の魅力の情報発信に努めます。



●歴史の伝承

本市発展の歴史を市民共有の財産として後世に伝承し、将来のまちづくりに役立てるため、新たな岡谷市史の発刊に向けた市史編さん事業を推進します。

●市民ひとり1スポーツの実現



生涯にわたって運動やスポーツに取り組めるように、スポーツ団体やスポーツ推進委員などと連携しながら、幅広い年齢層の市民や障がい者が楽しく参加できる各種教室、大会などの多様なスポーツ機会の充実を図り、健康を志向したスポーツ活動を推進します。

●競技力の向上

全国大会などの誘致や競技力向上のための教室、大会を開催します。また、全国大会で活躍できる選手の育成を支援するとともに、指導者講習会などの開催を通じて、スポーツ指導者の養成を推進します。



●子どものスポーツ機会の充実



学校体育の学習の充実をはじめ、子どもたちの成長期に合わせた体力向上プログラムにより、体力、運動能力の向上をめざすとともに、スポーツを始めるきっかけづくりとして、多様なスポーツ教室などを開催し、運動やスポーツへの苦手意識を軽減させ、喜びや楽しいと思える機会を提供します。さらに、中学校運動部活動の地域移行に向けた取組を推進します。

●スポーツ環境の整備・充実

利用者が安全で快適にスポーツ活動を行えるように、スポーツ施設の長寿命化を計画的に進め、安全で安心な環境を整備します。

●第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会
(信州やまなみ国スポ・全障スポ)の推進

長野県PRキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ

令和10(2028)年に開催される第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会に向け、機運醸成を図りながら、万全な開催準備を推進します。また、これを契機に、スポーツに対する市民の関心を高めるとともに、大会終了後も大会開催の成果を本市の財産として、未来へ継承します。

第3期岡谷市教育大綱
(2024-2028)

令和6年2月

長野県岡谷市・岡谷市教育委員会

担当：企画課・教育総務課